

(2) 土地利用

本地域の土地利用は、大部分が住宅地となっている。中部から南部にかけては低層住宅がまとまってみられ、中部から西部、および東部の一部にかけては、中高層住宅が分布している。

業務施設は小規模なものが中部～西部点在し、工業施設がかつては東部にみられたが、現在では住宅地などに変化しているところがある。

学校などの公共施設は中部などに、公園は各所に点在している。

図 土地利用図



資料) 国土地理院

(3) 道路網

本地域の広域幹線道路は、北側を大阪高槻線が、西側を大阪内環状線が通っている。本地域内には、広幅員の幹線道路はなく、やや幅員の広い道路が東西、南北に通っている。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、中部から西部に多くみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくいかできない道路や袋小路となった行止りの道路で、中部から東部にかけて多くみられる。

図 道路網図



作図) 岡本

図 外水氾濫予測図(淀川)

2-4. 災害予測等

(1) 水害予測

① 淀川外水氾濫

淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域は、浸水深の最大は4m～5.5mで、東部にみられ、3m～4mの区域は、ほぼ全体に広がり、西部、北部の一部は2m～3mの浸水深となっている。



資料) 大阪市危機管理室

収容避難所である大桐小学校、大桐中学校は、この図によれば、1階まで浸水する予測となっている。

②神崎川外水氾濫

神崎川の外水氾濫予測図では、本地域は、浸水は発生しない予測となっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、0.1m～0.5mの浸水深が中部から東南部や東南部にかけてみられる。

大桐小学校、大桐中学校は1階も浸水しない予測となっている。

(2)地震予測

①震度予測

上町断層が活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域は全域が震度6強の激しい揺れが発生するものと予測されている。



②液状化

地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

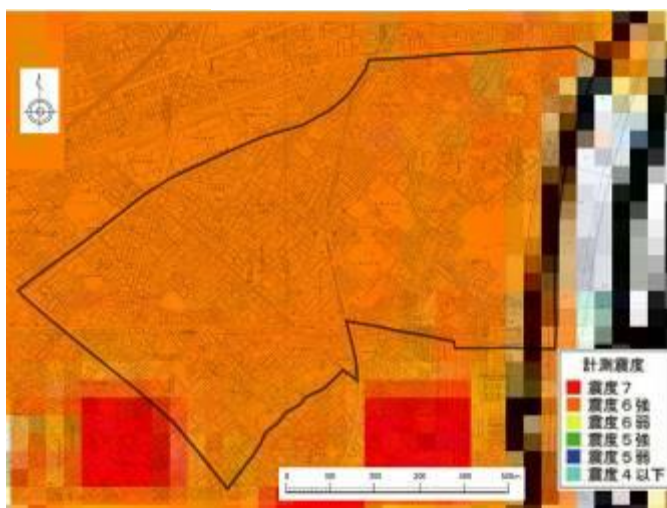
本地域の液状化の危険性は、東部の淀川沿いで高く、発生しやすい地区がみられ、中部以西は極めて発生しにくいと、予測されている。

図 内水氾濫予想区図



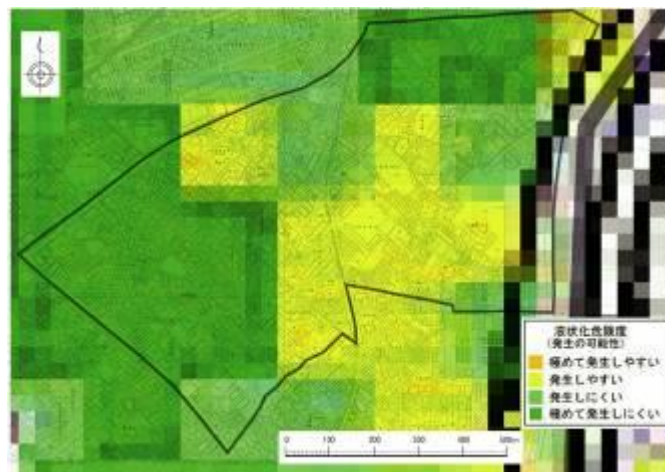
資料) 大阪市危機管理室

図 震度予測図



資料) 大阪市危機管理室

図 液状化予測図



資料) 大阪市危機管理室